

圓福寺月待画像板碑

(えんぶくじ つきまちがぞう いたび)

板橋区指定有形文化財(歴史資料) 平成8年3月8日指定

板碑は、中世に供養塔として造立された石造物の一つで、卒塔婆の原形ともいわれています。区内に所在する数百基の板碑はすべて埼玉県秩父地方で産出する緑泥片岩を使用し、これが板状に成形されています。そして表面に造立年月日(供養年月日)・被供養者名(法名)・仏を表す種子(梵字)・偈・真言・造立趣旨などが刻まれています。この板碑は室町時代(15世紀)に出現した民間信仰集団(結衆)によって造立されたもので、その内容から月待供養板碑とも呼ばれています。月待とは十五夜・二十三夜など定められた月齢の夜に人びとが集まり、月の出を待って儀礼・礼拝を行う民俗行事のことです。江戸時代には各地で盛んに行われていましたが、この板碑はその先駆的なものとなる貴重な資料といえます。銘文には文明17年(1485)の造立年月日に加え、道秀など6名の結衆と上部に「月」「日」が配されていることが特徴といえます。完形で保存状態も良好であり文化財となりました。



所在地：板橋区西台3-32-26 圓福寺

交通：東武東上線「東武練馬」駅

徒歩12分

都営三田線「西台」駅

徒歩20分

国際興業バス「南西台」

「西台都営住宅」徒歩5分